



日常業務にひそむリスクとその対策

久留米大学病院

2007年、厚生労働省医政局長通知によって、「医師と看護師等の医療関係職との役割分担」のなかに静脈注射等が明記され、“看護師の業務拡大”がにわかにクローズアップされた。久留米大学病院では、「IVナースインストラクターコース」を設け、安全な静脈注射ができる看護師の育成に力を入れている。教育プログラムの概要を紹介する。

安全な静脈注射が実施できる看護師を育成するため「IVナースインストラクターコース」を設置

安全な静脈注射を実施するために他のスタッフに指導できる看護師を育成

久留米大学病院看護部は2016年5月に開講される「IVナースインストラクターコース」に向け、2月10日にプレオープンセミナーを開催した。

副看護部長の國武栄子さんは、「2008年に当院看護師の静脈注射に関する指針を作成しましたが、静脈注射実施範囲は抗菌薬の初回投与は実施しない(レベル3)と決めていました。しかし昨年、指針作成より7年が経過し、指針と実態との乖離が生じていました」と言う。

昨年5月に実態を調査したところ、初回抗菌薬投与の64%は看護師が行って

り、アナフィラキシーショックを想定した初動トレーニングや教育、症状観察などはほとんど行われていなかったという。そのため、現状をふまえて静脈注射を安全に実施するための教育や体制の整備を行い、指針を改訂することにしたという。

「看護師の静脈注射に関する教育は、CT・MRI室の造影剤スキルドナース教育以外は新入職員に対しての集合教育のみだったので、その後の教育体制を整備することにしました」

「IVナースインストラクターコース」の目的は「安全な静脈注射治療を実施できる看護師を育成するために必要な、知識・技術・態度を習得する」であり、具体的な教育目標は、①安全で質の高い静脈注射実施の指導者となる、②スタッフ指導の教育プログラムを作成し実施できる、③

安全で質の高い静脈注射の実施における課題解決においてリーダーシップが発揮できる、としている。

「この教育プログラムは、患者さんにとって安全な静脈注射治療を提供するために必要な知識・技術・態度を習得し、他のスタッフへ指導できる看護師を育成することを目的に設立しました」と國武さんは話す。

ワーキンググループのメンバーがテルモの養成プログラムに参加

高度救命救急センター主任看護師の梅木道さんは「IVナースインストラクターコース」の開講に向け、昨年7月から10月に、テルモの「インジェクショントレーナー養成プログラム」を受講した。これは、



「静脈注射を安全に実施するための教育や体制の整備とともに、指針を改訂していく必要があります。コースを開講することにしました」と話す副看護部長の國武栄子さん



「今回は静脈注射を題材に教育方法について検討しましたが、そのほかの教育方法にも活かせるコースとしたい」と話す高度救命救急センター主任看護師の梅木道さん



「ワーキンググループの活動をとおして、輸液ポンプ・シリンジポンプに関する新人教育の方法や体制も確立したい」と話す小児科病棟主任看護師の榊島千穂さん

高い静脈注射実施能力のある看護師を育成できる指導者に、必要な知識・技術・態度を習得するというプログラムである。目標は、①インジェクショントレーナーの役割と責任を患者安全および専門職としての視点からとらえることができる、②静脈注射について科学的・安全学的根拠に基づき指導することができる、③学習者の主体的かつ効果的な学びを促す教育技法について理解することができる、④患者安全に寄与する注射指導計画を立案することができる、としている。

梅木さんは、「このプログラムを受講して静脈注射技術に長けた看護師になったというわけではなく、静脈注射を題材とした教育方法について学びました。今後は、IVナースインストラクターコースの企画・運営、IVナースインストラクターのサポート、新人看護師の静脈注射教育を担当することになります」と言う。

また、小児科病棟主任看護師の樺島千穂さんも同様に、昨年9月、テルモの「輸液・シリンジポンプトレーナー養成プログラム」を受講した。医療安全の要素を取り入れた看護師・臨床工学技士が参加できる指導者向けの研修プログラムで、シナリオシミュレーション(新人役・指導者役・観察者役に分かれてのロールプレイ)による学習と振り返り(ビデオ活用)を行い、指導におけるポイントや視点を学ぶというもの。目標は、①医療安全の基礎的な考え方を理解できる、②シミュレーションを用いた学習支援の基礎を理解できる、③輸液・シリンジポンプの安全な使用方法を実践・指導できる、④指導者として院内研修の企画・実践の考え方を理解できる、としている。

樺島さんは、「医療安全・シミュレーション教育の基礎を学び、シナリオシミュレーションによる研修の有用性や運営方法を理解できました。受講生同士の気づきや成果を共有することもできたので、当院のIVナースインストラクターコースの企画・運営、受講者のサポートに活かしてい

●久留米大学病院の静脈注射教育体制

	1. 新人静脈注射研修(入職時)	2. 院内認定IVナースインストラクターコース
到達目標	安全・安楽に配慮して、手順に従った静脈注射ができる	①安全で質の高い静脈注射実施の役割モデルとなれる ②自部署のスタッフ指導の教育プログラムを作成し実施できる ③自部署での安全で質の高い静脈注射の実施における課題解決においてリーダーシップが発揮できる
研修内容	IVナースインストラクターおよびクリニカルコーチによる集合教育および各部署でチェックリストに沿って指導 ・シミュレーターによる演習 ・合併症・副作用の早期発見と早期対応 ・薬剤の知識と危険性 ・医療安全管理 ・シリンジポンプ、輸液ポンプシリンジ取扱い ※新人の単独による静脈注射の実施はIVナースインストラクターの評価の後に行う	・IVナースインストラクターの役割 ・感染管理 ・輸液療法に関する解剖生理学 ・薬剤に対する知識 ・副作用への対応、緊急時の対処法 ・シリンジポンプ・輸液ポンプの適正使用 ・安全・安楽の確保：最小限の苦痛で実施する技術 ・効果的な指導方法

※造影剤スキルドナース(部署限定)

・外来CTMRI室勤務看護師はIVナースインストラクター指導のもとさらに造影剤の知識を学ぶ

※抗がん剤スキルドナース(部署限定)

・外来治療センター勤務看護師はIVナースインストラクター指導のもとさらに抗がん剤の知識を学ぶ

●久留米大学病院「IVナースインストラクターコース」の概要

目的：安全な静脈注射治療を実施できる看護師を育成するために、必要な知識・技術・態度を習得する

教育目標：①安全で質の高い静脈注射実施の指導者となれる

②スタッフ指導の教育プログラムを作成し実施できる

③安全で質の高い静脈注射の実施における課題解決においてリーダーシップが発揮できる

受験資格：ラダーⅢ以上 師長推薦

自部署における安全な静脈注射実施のための指導が実施できるもの

シラバス(講義28単位+演習20単位)

1. IVナースの役割と責任

単位：8単位(講義：4単位、演習：4単位)

目標・ねらい：

①IVナースインストラクターの役割が理解できる

②効果的な学びを促す教育技法について理解できる

③安全な静脈注射の実施のための指導ができる

2. 薬剤に関する知識

単位：4単位(講義：4単位)

目標・ねらい：

①薬剤の適応、危険性が理解でき、正しい取り扱いができる

3. 輸液療法に関連する解剖・生理学

単位：4単位(講義：4単位)

目標・ねらい：

①安全な血管確保について理解できる

②輸液療法について理解できる

③水・電解質のバランスの基礎知識を深め、適正な輸液製剤の使用(選択)方法について指導できる

4. 副作用への対応、緊急時の対処方法

単位：8単位(講義：6単位、演習：2単位)

目標・ねらい：

①副作用への対応、緊急時の対処方法が理解できる

②急変時の対応について正しく指導できる

5. シリンジポンプ・輸液ポンプの適正使用

単位：8単位(講義：4単位、演習：4単位)

目標・ねらい：

①輸液ポンプ・シリンジポンプを適正に使用できる

②輸液ポンプ・シリンジポンプの適正な使用方法について指導できる

6. 安全・安楽の確保、最小限の苦痛で実施する技術

単位：8単位(講義：4単位、演習：4単位)

目標・ねらい：

①安全な静脈注射の実施と指導ができる

②注射に必要な物品の選択、固定についての知識・技術を習得する

7. 感染管理

単位：4単位(講義：2単位、演習：2単位)

目標・ねらい：

①安全な静脈注射実施のための、感染防止対策が理解できる

②安全な静脈注射実施のための、感染防止の指導ができる

8. 指導方法

単位：4単位

目標・ねらい：

①静脈注射について科学的・安全学的根拠に基づき、指導することができる

②学習者の主体的かつ効果的な学びを促す教育技法について、理解することができる

③安全な静脈注射指導計画を実施のための課題解決・リーダーシップが理解できる

●T-PASで実感する 体験型研修

「院内認定IVナースインストラクタープレオープンセミナー」のうち、静脈注射に関連するT-PAS研修*を体験。静脈注射の実施にあたっては、手技はもちろんのこと、使用する医療機器の取扱いにも注意が必要である。研修を体験して「なぜ」事例が発生するのか、機能を正しく発現するための適正使用方法とはを理解した。



「穿刺前に針先を確認したら曲がっていた」「穿刺したら患者が痛がった」という事例を模擬体験



「外筒にひびが入っていた」「外筒から薬液等が漏れた」という事例を模擬体験



「シリンジポンプの警報が鳴らずに薬液が急速に投与された」「ポンプからシリンジをはずしたときに薬液が急速投与された」という事例を模擬体験



NICU主任看護師の野田久美恵さん
「ふだんはシリンジなどを壊してみることはないのですが、シリンジの外筒のひび割れの原因を実感することができました。添付文書の注意事項を実体験できたので、病棟のスタッフにも伝えたいと思います」



NICU看護師の大川記子さん
「新生児にシリンジポンプを数台使用することもあるので、サイフォニングのリスクを実感できてよかったです。正しくポンプにセットすること、はずすときの注意点などの重要性を再確認できました」



ワーキンググループのメンバー7名と
野田看護部長

きたいと思います」と話す。

梅木さんと樺島さん、國武さんは、昨年6月に立ち上げたIVナースインストラクターコースのためのワーキンググループのメンバー(全7名)である。

國武さんは、「当院の約1000人の看護師にどう教育・指導しようかと悩んでいましたが、この2人がテルモのプログラムで学んだことを活かし、まず指導者を育成しようということになりました。そして、7人のメンバーで具体的なシラバスなどについて検討してきました」と話す。

IV関連以外の教育方法に 活かせるコースとして確立する

5月27日から6月25日に実施される当



看護部長/副院長 野田順子さん

知識・技術・態度を習得し、 多くのスタッフに指導できる看護師を育成したい

当院は大病院であり、今後、さらに高度急性期の患者さんを担う使命があります。そして、静脈注射による治療を受ける患者さんは、さらに増加することが考えられます。そのためには、安全で質の高い静脈注射の実施ができる看護師の育成が必要だと考えています。

2002年の厚生労働省医政局通知の行政解釈変更を受けて作成された日本看護協会の「看護師の静脈注射に関する指針」に準じ、当院でも翌年に指針を作成しました。現在は、CT・MRI

センターに限定して、スキルドナースの認定を受けた看護師が造影剤の注入を実施しています。また、外来治療センターに限定して、ポート穿刺の教育を受けた看護師がポート穿刺を実施しています。

今後、患者さんにより安全な静脈注射治療を提供するために、必要な知識・技術・態度を習得し、他のスタッフへ指導できる看護師の育成を行います。



コースは、講義28単位と演習20単位で、まず10～15名の認定を目標としている。

樺島さんは、「近い将来、各病棟にIVナースインストラクターが1人いることが目標です。そして、インストラクターが病棟のスタッフや新人看護師に教育するという体制が整い、患者さんに安全な静脈注射を提供したいと思います。また、輸液ポンプ・シリンジポンプに関する新人への教育方法も確立していきたいと思います」と言う。

梅木さんは、「演習などはメーカーであ

るテルモと情報交換しながら協働して確立していきたいと思っています。また、このコースをとおして院内の静脈注射のクオリティを維持できること、静脈注射以外に関する教育方法の確立に活かしていけるコースにしたい」と抱負を話す。

國武さんも、「当院の院内認定コースにはすでにクリティカルケアと皮膚・排泄ケアがあり、IVナースインストラクターは3つめのコースになりますが、さまざまな専門的な知識や技術を学ぶ教育体制を確立していきたいと思っています」と話した。

*T-PAS研修：テルモの汎用医療機器(シリンジや輸液セットなど)による事故を防ぐために、添付文書に記載された注意事項のうち、発生する頻度や危険度が高いものを体験して理解する教育プログラム。詳細については、テルモ株式会社にお問い合わせください。